

THE FINEST  
VOYAGE  
TOGETHER

# ASUKA

CLUB MAGAZINE

ASUKA  
CLUB  
MAGAZINE

NO. 101

Spring 2020

2020年5月10日発行

発行/郵船クルーズ株式会社 ASUKA CLUB 事務局  
〒220-8147 横浜西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー47階 TEL. 045(640)5302  
発行人/坂本 潔  
ホームページ <https://www.asukacruise.co.jp>



## 新装の、船出。

Special  
メルボルンの休日

Special  
飛鳥IIのリニューアル

Fashion  
夏のインフォーマル

Essay  
東山彰良

Interview  
森山良子

Foodie  
海彦のお寿司



# ASUKA

CLUB  
MAGAZINE

新装の船出を、  
ごいっしょに。

飛鳥IIは次のステージへ。  
新たな時代のクルーズを日本の船としてカタチにするために、  
飛鳥IIは大規模なリニューアルを行いました。  
そして、時を同じくしてクラブ会員誌「飛鳥」も、  
より内容を充実させて装い新たに「ASUKA」に生まれ変わりました。  
本来ならこの新装の船出、その喜びをアスカクラブメンバーの皆様と  
心から分かち合いたいところではありますが、  
いまはかなわない社会状況にあります。  
新しい飛鳥IIは、  
「おかえりなさい」「ただいま」のご挨拶を笑顔で交わせるその日のために、  
これまで以上の快適さとホスピタリティに磨きをかけ、準備を整えております。  
1日も早くこの事態が収束し、船長をはじめとするクルーとアスカクラブメンバーの皆様、  
そしてお客様同士がつながりを取り戻せますように。  
新装の船出に、祝杯をあげられるその時を待ち望んで。

ASUKA CLUB

Spring 2020

# 新装の、船出。

お待たせしました。飛鳥Ⅱは約2か月をかけたリニューアル工事を終えて、新装の船出を待っています。

同じく新装となった「ASUKA」101号の巻頭特集では、今回の大規模リニューアルを、デザイナーの視点からご紹介。まずは速報としてクラブ会員の皆様にご覧いただきませう。なお、調度品や装飾演出はこれから充実させてまいります。ご期待ください。

デザイナーの視点  
飛鳥Ⅱのお客様はリピーターがとて多く、飛鳥Ⅱのイメージはみなさんお持ちです。日本を代表する客船としての華やかさは変わらず継承しながら、フレッシュなモダンさを調和させてデザインしました。



アスカプラザ「アスカビジョン」

ASUKA Plaza

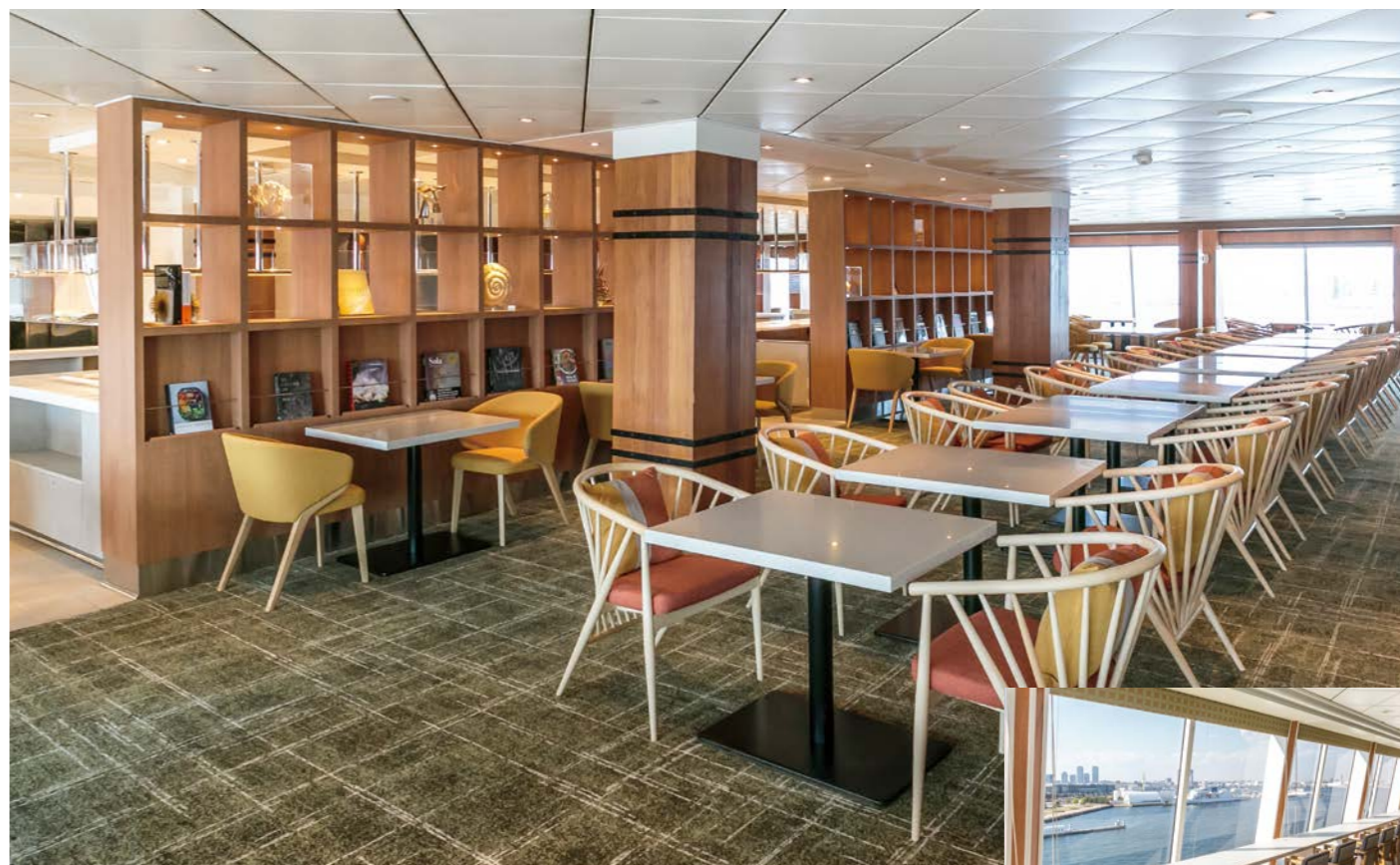
飛鳥Ⅱのレセプション前に広がる吹き抜けの「アスカプラザ」には大画面LEDディスプレイ「アスカビジョン」が登場します。大画面による新たな演出でクルーズをさらに鮮やかに彩ります。

アスカプラザ  
「アスカビジョン」  
ASUKA Plaza  
ダイナミックな  
映像演出を  
お楽しみください。



ブックラウンジ「イー・スクエア」

e-Square



「リドカフェ&リドガーデン」

Lido Cafe & Lido Garden

「リドカフェ&リドガーデン」  
Lido Cafe & Lido Garden  
デイリーな食の空間に、心弾む楽しさをデザイン。

カジュアルな雰囲気です。食事を楽しめる「リドガーデン」は、5つのアイランド型ユニットが配置され、よりご利用いただきやすい空間に。「リドカフェ」には窓辺にカウンター席ができて海を見ながらお食事。使いやすい居心地のよい空間に進化しました。

家具も全面的に新しく。イタリアの家具にオレンジーやイエローといった明るい生地を用いて軽やかで楽しい雰囲気。以前のリドガーデン、リドカフェの家具は、全体的に大ぶりでした。今回のリニューアルでは日本のお客様が使いやすい高さで設計しています。

ブックラウンジ  
「イー・スクエア」  
e-Square  
まるでノマドカフェ。  
洗練とくつろぎの  
しつらえ。

ノートパソコンを開きつつコーヒーを楽しむ、そんな街中のノマドカフェのような空間に。洗練された中にもくつろぎがある。いろいろなところに気の利いたしつらえがあって、長居したくなる場所になっています。

奥の方にはソファ席やちょっとしたアームチェアなど、構えて使うデスクではない、くつろげる家具も入れています。

パームコートは家具とカーペットのリニューアルです。木とロープで編み込まれたような上質なイタリア製の椅子になりました。カーペットはパームコートのコンセプトを受けて、シマ模様やしシのシルエットが入ったもの。ここからイー・スクエアに入って行くのと、カーペットのシマ模様からやしシルエットが消えるという仕掛けがあります。見逃してしまいそうなデザインのこだわりにも、ぜひ注目してください。

## プレミアダイニング

### 「ザ・ベール」

The Veil

窓の外を流れるのは  
大海原。

まるでコンパートメント  
のような一人席。

ロイヤルスイート、アスカスイートのお客様専用のプレミアダイニングが、営業時間内のお好きなタイミングでお越しいただけるオープンシーティング制の「ザ・ベール」へと生まれ変わります。

注目していただきたいのは、コンパートメントのような2人席。雪花ガラスを用いたパネルで隣との席を仕切り、海に望むテーブルと2対のハイバックチェアで、プライベートな空間を作りだしています。お二人で食事をされる方には、ここが特等席となるかもしれません。このチェアはデザイナーが設計したものを、北海道の工房で製作しました。背もたれは、後ろを人が通っても気にならないことと使い勝手の両面から試作を重ねました。結果、ハイバックチェアのわりには繊細で女性的な、美しい椅子が完成しました。

### プレミアダイニング「ザ・ベール」

The Veil



※イメージCGです。実際とは異なる場合があります。

### アスカスイート「和洋室」

ASUKA Suite

## アスカスイート「和洋室」

ASUKA Suite

和の落ち着きと

洋の快適。

上質な時間が  
流れます。

飛鳥クルーズでは初となる和洋室が2室限定で誕生。華やかなクルーズの日々にホッと安らぎをもたらします。日本船ならではの趣とホスピタリティが特長です。

小上がりの寝室エリアは、畳をイメージした床の仕上げ。ツインで置かれたベッドは布団をイメージさせる低い仕様のもの。普段、和の寝室で過ごされているお客様には「我が家」のような落ち着きを感じていただけることでしょう。バルコニー側に設けられた障子風の丸窓は、寝室エリアを柔らかな光で満たしてくれます。

そして、バスルームには洗い場があります。使いやすさにこだわった和洋室の、これもホスピタリティのひとつです。さらに、洗面ボウルは日本の陶器風の仕上げというデザイナーのこだわり。和の落ち着きと洋の快適をかなえた新しいアスカスイートを、ぜひご利用ください。

## グランドスパ「露天風呂」

Grand Spa

海に身をゆだねる気分、  
極上のリラクスタイム。

グランドスパに新たに加わる露天風呂は、今回のリニューアルの目玉とも言えます。日本の船として「あつて欲しい」と望まれるしつらえです。

露天風呂というと「和風」を連想されがちですが、デザイン上そうはできません。飛鳥IIの流麗な外観に和風なもののがればアンバランスになります。だから全体的な色調、ルーバー（ひさし）のデザインやタイル使いなど、リゾート感のあるモダンなデザインを心がけました。

もちろんこの場所の主役は浴槽。日本各地に海を眺められる露天風呂は珍しくありませんが、ダイナミックに流れ行く海原を眺められるのは新鮮な体験。また、浴槽の縁から海がつながり続いていくような効果も狙ってデザインをしています。目にも、身も心にも極上のリラククスを感じていただけることでしょう。

※露天風呂は停泊時および航路上の都合や天候、運用上等の理由により営業時間が限られます。

### グランドスパ「露天風呂」

Grand Spa



デザインのプランニングボード

Interview

細やかな  
おもてなしを  
デザインに  
込めました。

日本の船を意識すること。それがデザインのテーマでした。しかし、それは「和風」ではありません。飛鳥IIは日本のお客様が、非日常の華やかさを求めて乗船される。だから日本船ならではの「細やかなおもてなし」に新たな時代の求めを掛け合わせて華やかにデザインすること。その中にも和の意匠をさりげなくしのばせました。約2か月をかけた飛鳥IIの大規模リニューアル。お客様には、ぜひご乗船いただき、その真価を見て、触れていただければと思います。



株式会社  
アスカクルーズ  
代表  
寺本昌志



デザイナー  
飯野容子



昨年のクリスマスに

飛鳥IIに乗船された森山良子さん。

伸びやかな美しい歌声と

明るく楽しいトークに、

ギャラクシーラウンジいっぱい

お客さまも大満足。

歌の力でお客さまの心を明るく

ライトアップしてくださった

クリスマスのスペシャルステージでした。

# 森山良子

さん



しみにしてきましたから。そう言えば、この数年間に乗せていただいたクルーズの中には、天候の影響で航路が変更になったこともありました。船内のスケジュールがいろいろと変更になってしまい、お客さまのアクティビティが足りないということだったので、「私で良ければ」とトークショーをしました。お話をしながら、ちょこっと歌も歌ったりして。今まで自分でもしたことがないようなことをしてみました。せっか

飛鳥IIでどこへでも  
行けるなら  
写真でしか  
見たことのない  
北欧へ行ってみよう

板をランニングしていました。ぐるっと一周できるので、向かい風に吹かれると全然進まないんだけど、船の反対側に回るとこんどは追い風になって背中を押してくれるからすごく楽ちんになるの。なんだかそれがすごく楽しかったのをおぼえています。

お食事もとてもおいしくいただいています。量もちょうど良く、あつさりしているというか、過ぎてないところが良いですね。ステージが終わって一段落したら、ちよっと一杯いただきながら、いつも美味しくいただいています。

プライベートでは夏休みや暮れに、いとこやお友だちと旅行に行きます。まとまった時間を、仕事から離れることも大切だと思うんです。今年の夏もいとこことヨーロッパへ行きました。いつも珍道中になるのだけれど、意識の中に仕事を置かない、なかなか良い時間でした。

もし飛鳥IIでどこへでも行けるなら、北欧に行ってみたいですね。フィヨルドとか、写真だけでしか見たことがないけれど。スカンジナビア半島を回って。街もすてきです。空路ではなく、港の方から、海の方から入っていくのは全然趣が違ふらうなと思います。時間がたっぷりあったら乗ってみたいですね。

母が北海道の函館出身なので、最初に乗った大きな船と言えば、青函連絡船だと思います。もっと小さくて、これほどゴージャスな船でもなかったですし、望郷というのかな、子ども心にもちよっと切ない気持ちがありましたね。でも、今は全然切なくなりました。もちろん私の場合は仕事で、シヨールのために乗船しているのですが、また飛鳥IIに乗船するのがすごく楽

くなんだから楽しんでいただかなかちやと、職業病みたいな感じかしら。そうそう、ピアノストが乗れなくなったということもありました。陸と違うから、いろいろとアクシデントがありますもんね。そこも含めて船旅の醍醐味です。以前はものすごく運動していた時期がありました。飛鳥IIでもお客さまが寄港地で下船されている時間を見計らって、7デッキの甲

すべてから  
解き放たれて  
凝縮した時間を  
持てるのが船旅



1967年「この広い野原いっぱい」でデビュー。その後、「ミリオンスター」「禁じられた恋」をはじめ「涙をこらえて」「さとうきび畑」「あなたが好きで」など、数々のヒット曲を生み出す。透明感のある歌声と歌唱力で、名実ともに日本のトップシンガーに。全国各地でのコンサートはもちろんテレビ、ラジオなどでも精力的に活躍している。

# Melbourne Saturday in Australia

## メルボルの休日

2021年1月、飛鳥IIは寒い日本を離れ、オセアニアへ向かう。

赤道を越え船が南下するにつれて、海もより青く澄んでいく。オーストラリア大陸最南端の都市メルボルンは、都市と自然がほどよい距離にある「世界で最も暮らしやすい街」。便利なトラムに乗って市内へブランチを食べに行ったり、ツアーで郊外のワイナリーを訪ねたり。楽しみ方はいろいろ。メルボルの休日を、さあ、どう過ごそうか？

オーストラリア

Australia

ケアンズ

メルボルン

Melbourne

シドニー

パーニー

City Data

Melbourne

オーストラリア第2の都市。面積約9,990㎡。人口約485万人。1850年代のゴールドラッシュで、あっという間に世界屈指の大都市へと発展。さまざまな国から移民を受け入れた結果、多様性のある文化が育まれた。



洗練された都会の街メルボルン。カフェでのんびりしたり、車で1時間の郊外で森を駆け抜ける機関車に乗る。

フリンダース・ストリート駅の  
目の前にはセントポール大聖堂。  
メルボルン三大ゴシック  
建築の一つだ。



別名は「ガーデンシティ」、  
都市と自然がほどよく混じり合う。  
カフェやマーケットでのんびり過ごす  
メルボルンの土曜日。



メルボルンの食を支える  
クイーン・ビクトリア・マーケット。  
おいしいデザートやフルーツを  
つまみながら歩いてみる。

日差しがふりそそぐ爽やかな午後。  
お気に入りのカフェで  
ランチを楽しむ人たち。



美しいビクトリア州立図書館は市民の憩いの場。



### Saturday in Melbourne Australia

# メルボルンの ベターライフを 探して

横浜を出てから19日目。飛鳥  
IIは太平洋を南下し、横浜から  
約八〇〇キロ離れたメルボル  
ン港へ。この日は土曜日。メル  
ボルンの人々は週末に特別なこ  
とをするわけではなく、お気に  
入りのカフェに行き、街を歩き、  
自然に親しみながら、人生を上  
手に楽しんでいる。地元の人た  
ちに交じって、メルボルンのベ  
ターライフを探しに行こう。

大きな交差点で信号待ちをして  
いるのは多様な国のルーツを持  
つ人たちだ。路地を入ってデグ  
レーブスストリートへ。カフェ  
は道の真ん中にテーブル席を並  
べ、土曜日の午後をのんびり過  
ごす人々にぎわっている。  
メルボルンには第二次大戦後、  
多くのイタリア移民がやってき  
て、おいしいエスプレッソコー  
ヒーを淹れるカフェが次々と  
オープン。淹れ方はもちろん焙  
煎にもこだわったカフェ文化が  
根付いている。

メルボルンには19世紀のゴー  
ルドラッシュの頃に建てられた  
建築物も数多く残っている。  
「生涯に一度は訪れたい美し  
い図書館」に選ばれたビクトリ  
ア州立図書館もその一つ。中央  
の吹き抜けドームにある八角形  
の閲覧室は、息をのむ美しさ。  
本を読んだり、チェスをしたり  
ひとそれぞれ静かに時を過ごし  
ている。



さくて、カフェでは何を注文す  
るべきか。迷ったら「フラット  
ホワイト」を頼もう。エスプレ  
ッソコーヒーにスチームミル  
クを注いだもので、言わば、  
濃いめのミルクコーヒー。カ  
フェラテよりもミルクが少な  
いのでコーヒーの味をより楽  
しめる。オーストラリアでは  
とてもポピュラー。

## 白いコーヒー って何？

Column



# 2021年 オセアニア グランド クルーズ

≫ 1月26日～3月7日  
横浜発着  
40泊41日

≫ 1月27日～3月8日  
神戸発着  
40泊41日

## 日程表

1月	January
26日	横浜(日本)
27日	神戸(日本)
31日	サイパン(北マリアナ諸島)
2月	February
6日	ケアンズ(オーストラリア)
10・11日	シドニー(オーストラリア)
13日	メルボルン(オーストラリア)
初寄港 14日	バーニー(オーストラリア)
17日	ミルフォードサウンド通航
20日	オークランド(ニュージーランド)
24日	ポートビラ(バスアツ)
3月	March
3日	グアム(アメリカ)
7日	横浜(日本)
8日	神戸(日本)

旅行代金 2,211,000円～  
10,731,000円

〈グランド特別割引〉  
2020年6月30日(火)までに全額お支払いのお客さまは、  
上記の旅行代金が20%割引になります。  
※客室番号のご希望はお受けできません。

## 就航30周年を 記念した クルーズ特典

- 特典 ① ケアンズからは「キュランダ半日観光」、シドニーからは「市内半日観光」の特典ツアーへご案内
- 特典 ② バスアツ×飛鳥II 交流会を開催
- 特典 ③ 飛鳥オリジナルラベルのオーストラリアワインをプレゼント



ヒゲの駅長さんに見送られ、  
映画のワンシーンのように  
出発進行!  
童心にかえてワクワクする。

ひよこり顔を出すヤラ・バレエ。  
澄んだ空気とおおらかな太陽が育てた  
オーストラリアワインで乾杯!

カンガルーも

## Saturday in Melbourne Australia



レトロな蒸気機関車は  
ユーカリやシダの生える森を抜け、  
木製の橋を渡って牧草地を駆け抜ける。

寄港地観光ツアーでは、  
パップフィン・ビリー鉄道の  
乗車に加え、ヤラ・バレエの  
ワイナリーも訪れます。

ドメイン・シャンドンのワイナリーを訪ねる寄港地観光ツアーも予定しています。



## Saturday in Melbourne Australia

# ワイナリーに 森林浴、 自然あふれる 郊外へ

さて、よりエキサイティング  
で特別な体験がしたければ、メ  
ルボルン郊外へ。メルボルンか  
ら車で1時間ほどのヤラ・バレエ  
は、数多くの名門ワイナリーが  
集まるエリア。オーストラリア  
の中でも涼しい気候をいかして  
シャルドネやピノ・ノワールな  
どの品種を育てている。

よう。気軽にワインの試飲をし  
たり、リーズナブルな料金でワ  
インを購入することができると  
ヤラ・バレエではレストラン併  
設のワイナリーも多く、週末に  
はワイナリー巡りのツアーが人  
気だ。  
中でも人気なのがモエ・エ・  
シャンドンのワイナリー、ドメ  
イン・シャンドン。フランスの  
シャンパーニュ地方でつくられ  
たものしか「シャンパン」を名

乗ることを許されないが、ヤ  
ラ・バレエ産のスパークリング  
ワインもフランスと全く同じ製  
法で丁寧につくられている。ゲ  
ラスの底からわき上がる繊細な  
泡、モエ・エ・シャンドンなら  
ではの上品な香りと味わいを  
リーズナブルに楽しめる。  
自然の中でアクティブな体験  
をしたい場合は、ダンデノン丘  
を駆け抜ける蒸気機関車、  
パップフィン・ビリー鉄道がおす  
すめ。20世紀初頭に建設され、  
メルボルンの市民の週末旅行先  
として親しまれてきたオースト  
ラリア最古の蒸気機関鉄道だ。  
窓ガラスのないオープンタイプ  
の車窓からは素晴らしい景色が  
堪能できる。沿線には緑濃い温  
帯雨林が広がり、レトロな車両  
に座っていると、まるでおとぎ  
話の世界に入り込んだよう。



ワインベルト

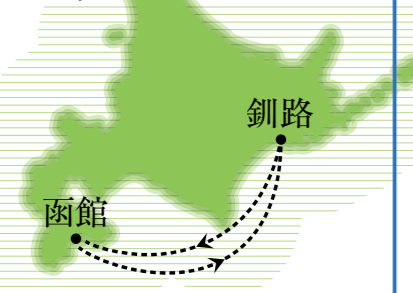
オーストラリア

オージー  
ワインに注目

北緯30°～50度、南緯30度～  
50度の緯度帯をブドウ生産  
に適した「ワインベルト」と  
呼ぶ。最近では温暖化の影響  
でベルトの位置がずれてきて  
いる。そこで、より冷涼な気  
候にあるオーストラリアや  
チリのワイナリーに期待が  
集まっている。

Column

### 北海道



## 函館集合! 秋の釧路 ウィークエンド クルーズ

9月4日(金)～6日(日)  
函館→釧路→函館

112,000円～  
546,000円

※詳しくはHPまたは  
商品パンフレットをご覧ください。

### アクセス便利な 新埠頭 ますます楽しくなる 函館観光

寄港100回を越えた函館港。いつも心のこもったおもてなしで人気の寄港地です。若松ふ頭は函館駅の目の前、朝市へも歩いてすぐ。移動に要する時間がゼロになるので、その分たっぷり観光を楽しめます。

横浜発着なら1週間はかかる北海道クルーズが、飛行機や新幹線を利用すれば2泊3日からお楽しみいただけるので、現役世代にもご参加いただきやすいと思います。もう一泊されるなら、函館空港近くの湯の川温泉もおすすめです。

営業チーム長

板垣明朗

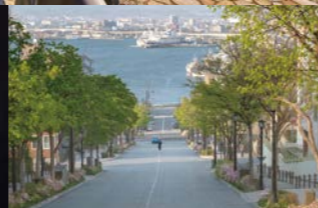


坂道に立ち並ぶ洋館や教会  
そして赤レンガ倉庫。  
ロマンチックな見所が  
ギュッと詰まった港町。



## 函館

函館朝市には  
海鮮丼の店がいっぱい。  
ウニ、カニ、いくら  
どれにしようか迷ってしまう。



## 釧路

手つかずの湿原は  
動物たちの楽園。  
北海道の雄大さを感じ思いっきり  
深呼吸する。



カナディアンカヌーに  
乗り込み釧路湿原へ。  
聞こえるのは川の流れと  
鳥の鳴き声。

### ショートクルーズ3日間

Short Cruise

### Kushiro Autumn Cruise 3 days

# 北海道 週末旅

飛鳥IIに乗りたければ、  
長く休めない。  
そんなときは週末のショートクルーズを  
上手に利用してみませんか。



3日間で北海道クルーズを気軽に楽しめるのが「函館集合! 秋の釧路ウィークエンドクルーズ」。昨春秋に新たに整備された函館港若松ふ頭は函館駅や函館朝市へ歩いてすぐ。飛行機や北海道新幹線を利用すれば、全国各地からこんな週末旅が楽しめます。

### 1日目

## 飛行機で 函館へ

函館空港に到着。乗船まではまだ時間がある。

### 函館朝市でランチ

まずは、函館朝市へ。海鮮丼は種類がたくさんあって、どれにしようか迷ってしまう。ウニやカニがたっぷりのった海鮮丼を食べて大満足。食後に歩いて函館港へ。この近さはとても便利。

### 飛鳥IIに乗船

「おかえりなさい」とクルーたちの笑顔で迎えられるながら乗船。7デッキへ出ると、「函館名物「いか踊り」の音楽が。紙テープを投げると、いよいよ出航。旅の始まりをスパークリングワインで祝う。

### 2日目

## 釧路港に 着岸

目覚めると船は釧路に。朝食はリドカフェ&リドガーデンで、シェフに作ってもらったふわふわのオムレットと、焼きたてのパン。陽気なウェイターたちのおしゃべりも楽しい。

### 釧路湿原でカヌー体験

寄港地観光ツアーで釧路湿原へ。カヌーは初体験だけれどガイドさんが一緒なので安心。日本最大の湿原には数多くの生き物が生息している。穏やかに流れる釧路川、水面近くから眺める景色は実に美しい。

### 飛鳥IIの夜を楽しむ

船に戻り、ドレスアップしてディ



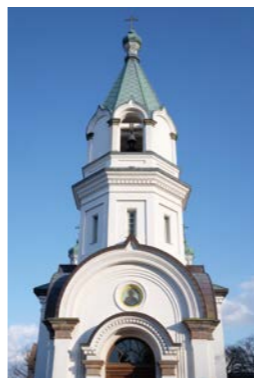
### 3日目

## 下船後は お寿司屋さんへ

飛行機は夜の便なので、レンタカーでもう少し函館を楽しもう。お昼は調べておいたお寿司屋さんへ。おまかせで握りを注文し、新鮮な旬の魚に舌鼓をうつ。

### ドライブで函館を巡る

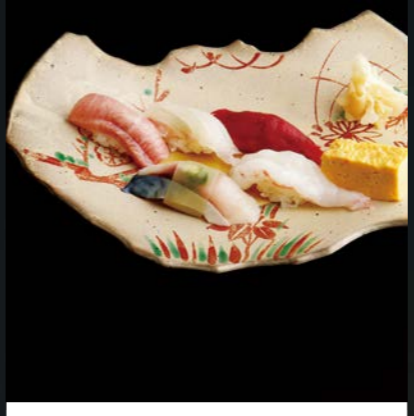
飛行機の出発時刻までは函館を観光。石畳に教会や洋館が立ち並ぶ、異国情緒あふれる坂の街も、車で巡れば楽々。金森赤レンガ倉庫のあるベイエリアではお土産を探してショッピング。わずか3日間だけれど、北海道を満喫して、リフレッシュできる週末旅だ。







食事は船旅の大きな楽しみの一つ。かねてより国内外の食通を唸らせてきた日本郵船の客船。その伝統を継承する飛鳥IIの「美食」を巡ります。



③ あらかじめ仕入れたネタの他に、寄港地で地ものが入った際には、提供されることもあります。  
④ 海鮮蒸し寿司は、海彦の看板メニュー。基本は蒸したネタ7種と生のネタ3種が贅沢に盛りられる。

# 海彦のお寿司



飛鳥IIの美食を彩る本格的な江戸前寿司には、客船ならではの仕入れの努力と、職人の心意気がありました。

## 厳選

選された海の幸を洋上で味わう愉悦。『海彦』では江戸前寿司、お刺身、一品料理、コースメニューを銘酒とともに楽しみいただけます。中でも一番のお勧めは『海鮮蒸し寿司』。シャリとともに、ずわい蟹、海老、鮑、タコ、シャコ、穴子、ホタテを蒸し上げてツメ(甘いタレ)をかけ、さらに生の鮪や烏賊、雲丹を載せた贅沢なもの。シャリにはガリと胡麻、かんぴょうを混ぜ込むアクセントで飽きさせません。

『海彦』は日本のクルーズシップを代表する飛鳥IIならではのスペシャルな場所。お客様に期待されるクオリティを常に保つには目に見えない苦勞があります。海彦シェフの野原さんに聞きました。

「やはり一番苦心しているのは仕入れです。街場のお寿司屋と違って、毎朝市場に行って仕入れる、ということができない。ネタの大部分は出航時に積み込み、鮮度を保ちます」。日本国内の寄港地には、そこにしかない美味しい魚があります。海外でもスペインやマルタの鮪。ボストンの鮪は有名ですし、サンディエゴの雲丹はとて評判が高い。

「寄港地で時間が許せば仕入れに出かけます。ただ市場は朝が早いので、飛鳥IIが着岸する頃には閉まっている。ポンと行って買える仕組みでもない。港近くの魚屋さんや、活魚を扱っているお店に出向いて、名刺交換して、まずは関係づくり。年に数回しか来られないけれど扱わせてもらえませんか？ というところから始めます。もちろん本社に仕入れをお願いすることもありますよ」。北海道では春先に刺身で提供できるホッケを仕入れられることがあります。築地を経由してないからこそその新鮮さ。「お客様には喜んでいただけます。ホッケの刺身が珍しいこともありますが、寄港地の思い出話と一緒に召し上がっていただけるからですかね」。

飛鳥IIの「美食」を和で彩る本格・江戸前寿司の『海彦』。次回のクルーズの思い出の一つにぜひお加えください。



長い航海では、ホッとできるひとときも提供したい

野原良浩 / ホテルで和食の修行を積み、寿司の道へ。実家は小田原の寿司店。現役の父から教えを請うことも。休暇中はバイクでツーリングと食べ歩きを楽しむ。